

三四七一番

しまらくは 寝つつもあらむを 夢のみに もと
な見えつつ 我を音し泣くる

三四七二番

人妻と あぜかそを言はむ 然らばか 隣の衣
を 借りて着なはも

三四七三番

佐野山に 打つや斧音の 遠かども 寝もとか児
ろが 面に見えつる

三四七四番

植ゑ竹の 本さへとよみ 出でて去なば いづし
向きてか 妹が嘆かむ